

07 イオルの再生について

1996（平成8）年、国のウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会の報告書において、アイヌ文化の保存・振興と国民の理解を促進するための新しい施策が提案されました。

その一つに、アイヌ民族の伝統的生活空間「イオル」の再生があります。《イウォロ》は、狩りなどを行う場所で、山の領域を《キムンイウォロ》、海の領域を《レプンイウォロ》と呼びます。日本の研究者・行政はアイヌ語の表記に不慣れなため「イオル」と呼びならわしています。

現在進められている「イオル」の再生は、①川筋や水辺を中心に一定の広がりをもった自然を基盤に、かつて暮らしに必要な素材を採取、利用してきた場所をイメージし、②それを現代に再現する上で必要な自然空間と文化の伝承を行う施設を総合的に整備することを目的としています。

イオルでは、植物の採取、栽培や魚類・動物の捕獲、保護が行われ、ここで得られた自然の素材は伝統的な手法のもとに加工、調製、利用、保存など一連の工程が行われ、工芸技術の実習、実演、体験交流、情報の発信など様々な文化的営みを継続的に展開することが目指されています。

イオルの再生にあたっては、道は「伝統的生活空間の再生構想の具体化に向けて」（2002（平成14）年）において、その適地として次の地域を選定しました。

中核イオル

白老地域 白老中核イオル整備構想及び基本計画 H16.3

地域イオル

札幌地域 札幌のイオル構想 H10.8

旭川地域 大雪イオル（仮称）設営企画書（基本案）H15.6

平取地域 沙流川流域における伝統的生活空間整備構想 H9.10

静内地域 伝統的生活空間の再生に関する基本的な考え方 H11.6

十勝地域 「アイヌ民族のトカプチミュージアム」地域イオル構想 H11.11

釧路地域（仮称）アイヌ文化公園「野外博物館アイヌコタン」

国が主宰するアイヌ文化振興等施策推進会議では、2004（平成 16）年に学識経験者やアイヌ文化伝承実践者からなる検討委員会を設置し、翌 2005（平成 17）年 7 月に報告書が出されました。

その後、イオルの再生に関する基本的な構想が定められ、2006（平成 18）年度から白老町で先行的に事業が展開され、札幌地域では 2012（平成 24）年度から、釧路地域では 2018（平成 30）年に阿寒湖温泉地区と春採湖周辺地区を中心に、事業が開始されています。

課題としては、当初の構想のようにまとまった広い空間を確保するために河川や林野を管理する各省庁と、管轄を越えた連携が必要であること、植物の育成と管理・利用には数年～20 年を要するため長期的な視野に立った計画の策定、そのために各地域に専門家を配置するなど事業実施のための具体的・総合的なサポートをどのように実現するかといったことがあります。

〈詳しくは〉

- ・アイヌの伝統的生活空間の再生に関する基本構想（2005 年・平成 17 年 7 月）
アイヌ文化振興等施策推進会議 国土交通省北海道局
<http://www.mlit.go.jp/hkb/ainu/index.html>
- ・パンフレット『アイヌの伝統的生活空間 イオルの再生に向けて』
公益社団法人北海道アイヌ協会編